

学番	6	新潟東高等学校
----	---	---------

令和5年度

学校自己評価表（報告）

学校運営実施報告		
学校運営方針	<p>1 探究学習を中核として、自己肯定感を高め主体的に自己実現に向かうことができる生徒を育成する。</p> <p>2 基礎学力の向上と学習意欲の喚起を図るとともに、自分で自分の学びを調整しながら進路希望の実現にむけ粘り強く取り組む生徒を育成する。</p> <p>3 保護者や地域と連携した取り組みを積極的に推進し、地域貢献できる生徒を育成する。</p> <p>4 教員集団が互いの良さを認め合いながら組織的な学びの場を構築し、授業改善研修や生徒指導研修、ICT活用研修等を通じて生徒の成長を支援する。</p> <p>5 「県立学校における教員の勤務時間の上限に関する方針」を遵守することによる、生徒と向き合う時間を確保する。</p>	
三つの方針(スクール・ポリシー)		
育成を目指す資質・能力に関する方針 (グラデュエーション・ポリシー)	<p>～卒業までにこのような資質・能力を育みます～</p> <p>①地域社会と積極的に交流することで、各自の興味・関心に基づく課題を見出し、学習活動で得た知識・技能をもとに、論理的に思考し主体的に解決策を見出す能力を育成する。</p> <p>②自分の主張を分かりやすく他者へ伝え、異なる主張に対しても、協調的に意見交換しながら合意形成を図ることができる能力を育成する。</p> <p>③正解のない問いや、困難な状況に際しても、他者と協力して、粘り強く挑戦し続ける態度を育成する。</p> <p>④自分のよさや強みを自覚し、うまくいかない状況に際しても、自己をうまく管理する柔軟な態度を育成する。</p>	
教育課程の編成及び実施に関する方針 (カリキュラム・ポリシー)	<p>～上記の資質・能力を育成するため、このような教育活動を行います～</p> <p>①情報端末や、教育サービスを積極的に活用し、すべての生徒が主体的かつ意欲的に学ぶことができる教育活動を展開する。</p> <p>②個々の生徒の特性や理解の状況に応じた最適な学びを提供し、かつ生徒が互いに交流しながら協調的に学びあえる授業を行う。</p> <p>③地域社会と連携することで、豊かな体験活動の場を設けながら、教科とも連携した探究学習を行う。</p> <p>④生徒が自らの学びを振り返るとともに、教師が指導の改善を図ることができる学習評価を行いながら、常に教育活動の質の向上を図っていく。</p>	
入学者の受入れに関する方針 (アドミッション・ポリシー)	<p>～このような生徒を求めています～</p> <p>①自己の可能性を肯定的にとらえ、意欲的に学ぶことができる生徒</p> <p>②地域に関心を持ち、地域の自然や文化、産業に興味を持って自ら学ぶことができる生徒</p> <p>③主体的に行動し、困難を乗り越え、仲間と協力しながら、粘り強く取り組むことができる生徒</p> <p>④教室での学習活動だけでなく、課外活動にも熱心に取り組むことができる生徒</p>	
昨年度の成果と課題	年度の重点目標	具体的目標
総合的な探究の時間推進事業の最終年となり、先行実施の3年間を総括することができた。身につけた探究の型を活用し、地域や社会の人、もの、ことに関わ	(1) 主体的に学び続ける態度を養い、他者との対話や協働を重ねながら、思考力・判断力・表現力の向上を図る	単元テスト・実力診断テスト等の結果を分析・検討し、指導の工夫・充実を図る。また、「東(あゆ)の風プラン」等とおして、対話する場面と協働する場面を多く設定し思考力・判断力・表現力の向上を図る。

<p>り課題設定の質を高め、自己の在り方生き方を考えながら、より良く課題を発見し解決していく資質・能力の向上を図りたい。</p> <p>学習指導要領の本格実施に向け、観点別学習状況評価のスキームを作成することができた。東高校生として卒業するまでに身につける資質・能力を「東光力」と位置づけルーブリックを作成した。今年度から本格運用するが、指導と評価の一体化を図るべくさらなる改善に取り組む。</p> <p>いじめ見逃しのない安全安心な学校生活のため、教員と保護者の意識改革および共通理解を図るため、教員・保護者の合同研修会を実施する。</p> <p>生徒面談週間を年間3回設定しハイリスク生徒の早期把握に努める。また、生徒が発するSOSを確実にキャッチするため、自殺予防教育に関する研修を充実させるとともに適切な組織敵対応がなされているか不断の見直しを行う。</p>	<p>(2) 一人一台端末を活用し、個別最適な学びと協働的な学びの一体的充実を図る</p>	<p>授業や探究の時間、及び自宅学習において、一人一台端末を効果的に活用し、一人一人の興味・関心に応じた学習課題に取り組む。また、ICTを活用した協働学習を多く取り入れる。</p>
	<p>(3) 地域に開かれた学校づくりの推進と戦略的情報発信体制の構築を図る</p>	<p>ア 「東(あゆ)の風プラン」等を活用して地域探究活動を推進し、郷土の資源に目を向け、地域を知り、地域に貢献する意欲や態度を育成する。</p> <p>イ 諸活動を積極的に推進し、種々の広報媒体をとおして新潟東高校の魅力を発信する。</p>
	<p>(4) 組織的な研修体制を構築し、授業改善や生徒支援体制の充実を図る</p>	<p>ア 組織的な授業改善に向けて、教科単位で互見授業を計画する。</p> <p>イ 生徒指導研修の充実を図り、自殺予防やいじめ防止、SNSの使い方等に関して教員のスキルアップを図る。</p> <p>ウ 生徒面談週間を通じて、ハイリスク生徒の把握と職員間での情報共有を図る。</p>
	<p>(5) 業務の改善に着手し、教員の勤務時間に対する意識を向上させ、業務量の平準化を図る</p>	<p>ア 業務仕分けを行うことにより、教員の働く意識の向上を図る。</p> <p>イ 特定の教員に業務が集中しないよう、組織としての見直しを行う。</p> <p>ウ 機会を捉えて随時保護者等に情報発信し、理解が得られるよう働きかける。</p>

重点目標	具体的目標	具体的方策	評価	
<p>・自ら主体的に学ぶ態度を養い、学習習慣の確立と学力の向上を図る</p>	<p>・単元テスト・実力診断テスト等の結果を分析・検討し、指導の工夫・充実を図る。</p>	<p>・単元テストを活用し、家庭学習による日々の学習の重要性を生徒に認識させる。授業改善をとおして学期毎の欠点解消を行う。</p>	B	B
		<p>・ベル着を徹底させるとともに、週末課題や日常的な家庭学習課題への取り組みをとおして、学習習慣を身につけさせる。</p>	B	
		<p>・放課後講習や夏期講習などにより、進路希望に合わせたより実践的な学力の養成に努める。</p>	A	
		<p>・週末課題などを利用して、基礎学力や受験に対応できる実践的な学力の定着を図る。</p>	C	
		<p>・「東(あゆ)の風プラン」の実践を利用して、学びの過程を意識づけさせ、仲間と協働して解決する力を身に付けさせる。</p>	B	
<p>・基本的な生活習慣の形成と進路目標の実現</p>	<p>挨拶の励行や時間を守ることを徹底し、社会性を育成する。また、総合学力テスト等を活用し学習到達度の中心層をC1～B3ゾーンへ。Dゾーン層のCゾーンへの底上げに取組み学習意欲の喚起を図る。</p>	<p>・挨拶及び遅刻指導、校外自転車指導を実施する。</p>	B	B
		<p>・学年毎の頭髪服装検査、及び服装チェック指導の実施する。</p>	B	
		<p>・定期的に頭髪・服装検査を実施し、注意を喚起する。</p>	B	
		<p>・貴重品の管理を徹底するとともに、ホームルーム等をとおして規範意識醸成を図る。</p>	B	
		<p>・街頭指導、講習会等をとおして自転車の運転マナーの徹底を図る。</p>	B	
		<p>・教室等の校内美化を徹底するとともに、月1回保健だよりを発行し、感染症や自己の健康管理など健康・安全についての情報を提供する。</p>	A	
		<p>・進路ガイダンス、進路だより、模擬授業体験、職場見学を通して進路意識の向上を図る。また、社会状況の変化に対応した</p>	B	

		進路情報を随時提供し、学習意欲を高めることで進路実現を目指す。 ・日々の授業をとおして学力向上を図り、大学・短大進学者数の割合を40%まで底上げする。	B		
・地域に開かれた学校づくりの推進と戦略的情報発信体制の構築を図る	ア 「東(あゆ)の風プラン」等を活用して地域探究活動を推進し、郷土の資源に目を向け、その活用を図ることのできる人材を育成する。 イ 諸活動を積極的に推進し種々の広報媒体をとおして新潟東高校の魅力を発信する。	・3年間を見通した進路学習をとおして、自己発見と自己理解に努め、学習指導、生活指導と連携しながら職業観を養うことで将来の進路目標を明確にする。	B	B	B
		・地域からのボランティア活動の要請に対し、全生徒へ速やかに呼びかけ参加者が出やすいように働きかける。	B		
		・進路指導に係るガイダンス等に大学や専門学校に参画してもらおう。	A		
		・総合的な探究の時間やLHR、面談等をとおして多くの情報を提供するとともに、一人一人に合った進路選択ができるようきめ細かく指導していく。	B		
		・探究学習推進委員会が中心となって、関係機関、進路指導部、各学年と連携し、「東(あゆ)の風プラン」における生徒の学びを充実させ、その内容を地域の方々や中学生に向けて随時発信する。	B		
・組織的な研修体制を構築し、生徒支援体制の充実を図る	ア ICTを活用した授業作りに向けて、教員研修を実施するとともに、互見授業をとおして組織的な授業改善に取り組む。 イ 種々の職員研修の実施と教員意識の向上を図る。 ウ 随時の生徒情報を共有し、生徒個々に応じた支援体制を構築する。	・ICTを活用した授業実践に取り組み、その成果と課題を全職員で共有する。	B	B	B
		・互見授業週間を設け、教員同士が学びあい、対話をしながら授業改善に取り組む。	B		
		・生徒に対し、学年末に授業アンケートを実施するとともに、保護者・中学校に対して公開授業を実施し、意見を聞き、授業改善につなげる。	C		
		・総合的な探究の時間についての教員研修を実施し、各学年のプログラムに生かした内容となるよう工夫を図る。	B		
		・PTAの研修会でいじめ防止・自殺予防について研修する。	A		
		・個人面談やアンケート調査により、いじめについての情報を共有し、早期発見、早期対応を図る。	B		
		・職員間で生徒の情報を共有するとともに、生徒支援委員会と連携し個別指導計画を作成し、支援に繋げる。また、スクールカウンセラーとの連携を図り、組織的な教育相談を行う。	A		
		・SCと情報共有を密に行い、併せて「こころとからだの健康アンケート」の活用により、多面的に生徒の状況把握に努める。	A		
		・いじめアンケート等に基づく学年や学級担任への支援を組織的に行う。	A		
		・欠時数調査を実施し、欠席の多い生徒に対しては担任を通じて保護者との連絡を密にし、情報の共有を図る。	B		
・業務の改善に着手し、教員の勤務時間に対する意識を向上させ、業務量の平準化を図る	ア 業務仕分けを行うことにより、教員の働く意識の向上を図る。 イ 特定の教員に業務が集中しないよう、組織としての見直しを行う。 ウ 機会を捉えて随時保護者等に情報発信し、理解が得られるよう働きかける。	・学校閉庁日及び定時退庁日を設定し、教職員の勤務時間に対する意識改革を進める。	B	B	B
		・各部の仕事内容が職員全体に明確に伝わるように、掲示板や共有フォルダなどの有効活用により、効率的に情報共有を行い、業務を行う。	A		
		・アレンジャーや掲示板を活用して自主学習を促し、適切な情報提供を行う。	A		
		・日常の業務が固定化されないよう改善の視点を持って取り組む。	B		
		・全校生徒が積極的に活動できる学校行事となるよう新しい企画を取り入れたり、今までの内容を精選し改善を図る。	B		
		・保護者宛メール、ホームページを随時更新し、学校の情報発信力を高め、開かれた学校づくりを推進する。	A		
		・「学年だより」を月1回は発行し、保護者への情報提供を行うとともに、生徒及び保護者との面談をとおして家庭との連携の強化を図る。	B		
		・メール連絡システムを有効に活用するとともに登録件数100%を目指し登録を促進し、家庭への連絡や意思疎通をきめ細かく行っていく。	A		

<p>成果</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 情報共有を迅速に行うためGroupWareの活用を促した。閲覧率が100%をめざしたが残念ながら一定数閲覧しない職員がいたため、来年度に向けて注意喚起していく。成績・出欠管理は校務支援システムを上手に運用することにより業務負担軽減に繋がった。また、各種会議資料をPDF化することにより、紙資源の大幅な削減に繋がった。 ・ 生徒が中心となって行う学校行事の運営を心掛け、生徒からの提案やアイデアを取り入れることが出来た。その反面、規律やルールの徹底など明確に提示する方策を今後、整備していきたい。 	<p>総合評価</p> <p style="text-align: center;">B</p>
-----------	--	--

学番	6	新潟東高等学校
----	---	---------

令和5年度

学校関係者評価（報告）

学校関係者からの評価・意見等※

- ・この地域に高校があり、倍率も高倍率を維持していることを大変、うれしく感じている。
- ・探究学習や地域との連携等、コミュニティ協議会も積極的な活動を待っている。
- ・授業中、生徒たちは集中していた。教育をされていると感じた。
- ・交通安全、保護者の送迎についてルールを確立させてほしい。
- ・自転車マナーアップモデル校として、ヘルメットの着用を試みてほしい。

学番	6	新潟東高等学校
----	---	---------

令和 5 年度

学校自己評価表（報告）

学校運営実施報告	
重点目標	学校関係者評価を踏まえた次年度の主な課題と改善策
主体的に学び続ける態度を養い、他者との対話や協働を重ねながら、思考力・判断力・表現力の向上を図る	時程を含めた教育課程の再編成に向けて検討を進める。
一人一台端末を活用し、個別最適な学びと協働的な学びの一体的充実を図る	ロイロノートや GoogleWorkSpace の有効利用により、家庭においても日々の学習の復習をできるようにする。 学校行事においても一人一台端末を活用し、情報の共有、意見交換を含めた方策を計画、実施していく。
地域に開かれた学校づくりの推進と戦略的情報発信体制の構築を図る	HP の有効利用について検討を進める。 学校行事を通して、地域と連盟していけるよう、観覧・参加案内等を行い、相互の意見を取り入れられるよう計画する。
組織的な研修体制を構築し、授業改善や生徒支援体制の充実を図る	研修履歴に基づく各自の研修計画が効果的に進められるように、管理職面談を効果的に活用していく。
業務の改善に着手し、教員の勤務時間に対する意識を向上させ、業務量の平準化を図る	GroupWare のさらなる活用を推進する。 デジタル採点システムの活用について検討を進める。